

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

コンピュータの導入により、従来は紙の上にかかれていた情報が、自由に様々な形に変換され、再利用が可能になりました。それにより、視覚障害をもつ人たちが他人の手を煩わせず自立的に文書を読み・書きすることも、かなり出来るようになってきています。しかし、数式や図、表などを多く含む科学的な内容の情報については、従来のコンピュータ処理技術では十分な環境が整っていないのが現状です。

例えば、視覚障害をもつ人たちの学習環境や雇用環境を考えた場合に、理系教材や科学技術文書などの情報処理支援環境が整っていないために、本来科学的な分野に適した能力を持った人たちが文系の分野に進まざるを得なくなるような現象が懸念されるほどに、その格差が拡大しています。

このような、視覚障害者にとって科学的情報へのアクセスが困難な状況は国際的にも大きな問題となっています。

私たちは、こうした科学情報へのアクセシビリティの問題を解決するために、特に視覚障害者のための理系教材や科学技術文書などへのアクセシビリティ支援システム開発を行うとともに、開発システムを利用した視覚障害をもつ児童・生徒・学生や社会人に対する有償・無償の支援事業や、関係者の相互協力ネットワーク形成などの事業を始めています。そして、それらの事業を円滑に行うために法人格をもつ組織として特定非営利活動法人サイエンス・アクセシビリティ・ネット (Science Accessibility Net) を設立します。

2 申請に至るまでの経過

1990年代後半に九州大学数理学研究院の鈴木昌和研究室を核にして形成された複数の大学や研究機関の研究者による数理科学情報処理システム研究プロジェクト "InftyProject" では、純粋に学術的な目的の研究とともに、その設立の当初から科学的情報のアクセシビリティ問題の解決を1つの重要な研究の柱において研究を進めてきました。また、プロジェクトでは、単に研究レベルにとどめることなく実際にシステム構築を行い、ソフトウェアを公開してきました。

その成果をふまえ、InftyProject のメンバー有志は、視覚障害をもつ人たちの理系分野の教育や社会進出を支援する実質的な活動を行う特定非営利活動法人 (NPO) 設立について、関係する人たちの意見を聞き、その必要性と可能性の調査をしてきました。その結果、研究開発と支援事業、さらにユーザーも含めた関係者の相互協力ネットワーク形成を目指した活動を行う組織として、

あらたな賛同者を加えて特定非営利活動法人設立にむけて準備を進めることとなり、2005年5月15日に筑波技術短期大学において第1回のNPO設立準備会議を、2005年6月26日に九州大学において第2回の設立準備会議を開催し、活動の骨子と定款案、事業計画案等が纏められました。そして、2005年8月21日の設立総会において特定非営利活動法人サイエンス・アクセシビリティ・ネットの設立を決議して、このたびの申請に至るものです。

2005年8月24日

特定非営利活動法人の名称： サイエンス・アクセシビリティ・ネット

設立代表者 住所： 福岡市早良区百道浜3丁目4番11-103号

氏名： 鈴木昌和